

美術科授業案

日時 平成29年5月19日（金）3校時
生徒 2年A組 男子13名 女子21名
授業者 更科結希
授業場 美術室

1 題材名 Modern KAKEJIKU Project 【A表現（1）（3）・B鑑賞】

2 題材の目標

鑑賞作品から、形や色彩などの特徴を捉え、四季を重んじた表現や鑑賞者の視点を考慮した画面の工夫の意図や表現について述べるができるようにする。また、掛け軸の形態や構図の特徴について、互いの考えや感じ方を共有し、暮らしの中で美術作品が担ってきた役割を考えさせる。

そして、対象を見つめて感じ取ったことから、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、鑑賞作品から学んだ掛け軸の空間の使い方を活かし、表すことができるようにする。

3 題材について

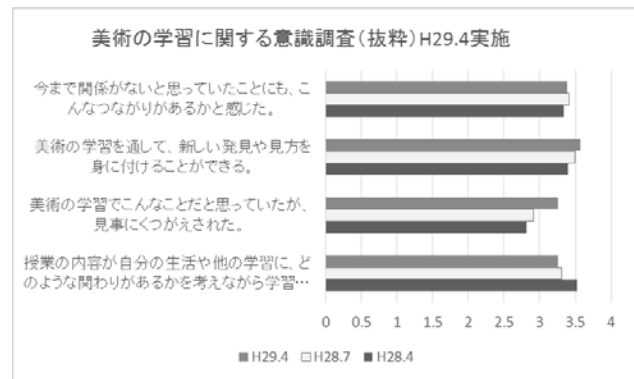
（1）題材観

美術科において、感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞するなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深めることに更なる充実が求められている。今回は、表現や鑑賞を〔共通事項〕との関連を図り、形や色などの働きについて実感を伴いながら理解できるよう、鑑賞教材を活用し学習したことを表すことによって資質・能力の獲得につなげていく。

学習指導要領における鑑賞のねらいとしては、自然や身近な環境の中に見られる様々な造形に視点をあて、そのよさや美しさなどを感じ取り、生活を美しく心豊かにする美術の働きについての理解を深めることである。また、表現においては対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることとしている。こうした理解を、生徒の感性や想像力に実感的に働きかけるためには、鑑賞と表現の相互の関連は不可欠であると考ええる。

本題材は、中学2年の生徒の心情を主題として、自分の姿をモチーフに掛け軸で表現する。その際、掛け軸の表現によく用いられる余白や画面構成の意図や工夫されていることを理解し、自らの作品に取り入れることによって美術文化や造形的な表現の工夫の理解につなげていくものとする。今回掛け軸の表現の理解を深めるため、釧路市立美術館所蔵の釧路市出身である久本春雄が描いた「初夏」を用い鑑賞する。

（2）目指す児童・生徒像



(3) 指導観

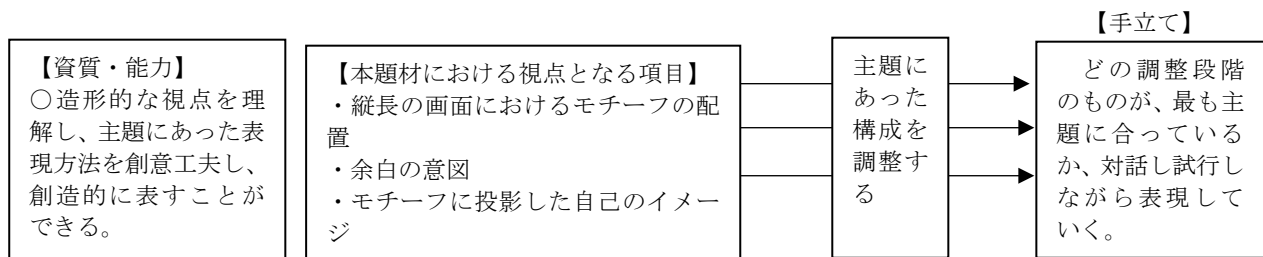
本題材は、モチーフとする自分の姿に主題を投影し、掛け軸の縦長の画面に構成し表現する。その際、縦長の画面にどのように配置し、表現していくかについて考えられるように、鑑賞作品を効果的に活用していくことに重点を置く。

本題材における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

美術科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術との関わりについて自分としての意味や価値をつくり出すことである。

本題材においては、造形的な視点として、掛け軸の縦長の画面に対するモチーフの構成や意図的な余白に着目し、主題を基に自己の想いをモチーフに投影し表現していくことによって、見方・考え方を高めていく。見方・考え方を活用して鑑賞教材を捉えれば、日本の美術には余白が存在し描かれている物が際立つような画面構成になっていることや、日本の暮らしの中での掛け軸の役割について気付く。視点が拡充し、余白の持つ意味について知識が増えることによって、生徒が表現したい主題を表すためには、モチーフの配置や大きさであることが適切であるかを検討できるようになり、さらには、鑑賞者の想起を膨らせる構図についての考え方につながっていくだろう。

具体的には、表したい主題をもとに構図を決定するために必要な視点を共有し、そこからどの調整段階のものがもっとも適切であるか、試行しながら決定していく場の設定とした。



4 評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
<p>ア 主題などを基に、主体的に創造的な構成を工夫して構想を練ろうとしている。</p> <p>イ 材料や用具の特性などを活かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。</p>	<p>ア 主題などを基に想像力を働かせ、形や色彩の効果を行かして、省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫して、心豊かな表現の構想を練っている。</p>	<p>ア 表したいイメージを持ちながら、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。</p>	<p>ア 造形的なよさや美しさ、表現の工夫について思いや考えを説明し合い対象の見方や感じ方を広げ鑑賞している。</p>

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
<p>表現を支える鑑賞教材を取り入れ、日本の表現方法の特徴を学び自らの表現に活用する</p>	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常を振り返り、自分の現状と臨む姿を想起しながら、掛け軸として表す主題を生み出す。 ・モチーフのポーズを考え、カメラで撮影する。 ・掛け軸の表装について学ぶ。 <p>【鑑ア】【発ア】【関ア】</p>	
	<p>2 時間目【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞作品の掛け軸で表されている構図や表現の工夫について学ぶ。 ・余白として表現しない部分に着目し意味や効果について考える。 ・自分の主題を基にしたモチーフを縦長の画面に意図を持ち配置する。 <p>【鑑ア】【発ア】</p>	<p>【作品や他者との対話】 他者の考えと自分の考えた借景の見え方の違いに着目し、画面に対するモチーフの位置の調整をする。</p>
	<p>3・4 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したいモチーフの構図を確定し、追加した形や色について考えながら表現する。 ・表現方法を工夫しながら創造的に表現する。 <p>【関イ】【技ア】【鑑ア】</p>	<p>【作品との対話】 具体的なモチーフを配置しながら、どの要素を鑑賞者の見方にゆだね、自らの表現をしていくかについて調整する。</p>
	<p>5 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現した作品を鑑賞し、美術作品の持つ価値や作者の意図について理解を深める。 <p>【鑑ア】</p>	
	<p>形の変容を記録し、前時の形態からの変化について、表したいことと照らし合わせて考える。</p> <p>主題と表現方法の工夫について照らし合わせながら考える。</p>	

6 本時について（2／5時間目）

（1）本時の目標

掛け軸に表現されている余白の在り方に着目し、主題を目立たせるためや借景といった考え方に触れ、主題を表すためにモチーフの位置や大きさの検討をしてアイディアスケッチに表すことができる。

(2) 本時における研究の視点

本時では、掛け軸の鑑賞から表現されている内容について見方・考え方を拡充していく。最初は見えているモチーフから感じられることをまとめて、次に見えていない余白に対する考え方について共有する。

そして、自分の表現したいことを表すための構図を決定する場面において、作品や他者と対話することを通して、共通する意見や異なる意見に出会い、自己の感性を働かせて、造形的な見方や考え方を活用した意見を持ち述べることを手立てとする。

(3) 本時の展開 (○発問、△補助発問、□指示・説明)

学習活動 (下位目標)	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 自分が表したい表現について確認することができる。</p> <p>・跳び越えたい ・逃げ出したいけど挑戦したい ・のぞき込みたい ・追求したい ・みんなと仲良く過ごしたい</p> <p>2 久本春雄の「初夏」を鑑賞し、表現されていることについて考え、ワークシートに書くことができる。</p> <p>【表現に関わること】 ・自然が描かれている ・下にモチーフが集まっている ・季節ごとに掛け替えて楽しんでいた暮らしがあった。 ・見たい季節を掛けていたのではないか。</p> <p>・描かれていることが目立つように ・着目させて、落ち着いて観られるように ・実際に霞みがかっていた ・描かないことで想像させようとした。 ・何も描かないことで想像させる</p>	<p>○どのようなテーマで、自分の今の感情を表現したいと考えましたか。</p> <p>□自分の感情を「掛け軸」から学び、的確に表現してみましょう。</p> <p>□本物の掛け軸の作品から、その表現の仕方について学んでみよう。 A-1</p> <p>○「表現の内容」で気付いたことを述べていこう。</p> <p>○なぜ、何も描かれていないところがあるのだろう。</p> <p>○描かれていないところに、どのような景色を見ようとしていますか。</p> <p>○観る人のイメージを大切にしていた掛け軸の在り方を自分の作品に活かすためにどのように工夫しようか考えよう。</p>	<p>【発言・ワークシート】</p> <p>他者との対話</p>
<p>3 自分の考えていた表現に使うモチーフを再検討し、最も良い表現を考え、ワークシートに表すことができる。</p> <p>〔調整〕表したいテーマと人の姿が合っているか。また、その配置や大きさの検討 ・画面に対して大きすぎて飛び跳ねているように感じない ・使わなければ説明が使わない小道具は使うべき。 ・人が小さすぎて、主役に感じない。 ・その感情を表したいのなら斜めに配置するのもいいのでは</p>	<p>○自分が表したいことは、どのようなポーズで、どの位置に配置することが良いだろうか。 手だてⅡ</p> <p>[スケッチで案を作りながら調整する]</p> <p>□表現したいテーマと配置の関係性について自分の言葉でまとめてみよう A-2</p>	<p>【発言・ワークシート】 作品との対話</p> <p>▲これまで、記録してきた造形的な視点について振り返りさせながら、理由を記述できるよう指示していく</p>
<p>4 次時への課題となることをワークシートに記入する。</p>	<p>□次の時間には、実際の和紙に描いていきます。どのように表していきたいか考えをまとめておきましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p>